



関連事業

■ギャラリーツアー

【日 時】9月16日(土) 13時30分～
【講 師】美術自然史館学芸員
【定 員】20人

■ウェルカムアートの展示

【内 容】明苑中学校の美術部が特別展をテーマとした巨大画(縦1.8m×横4.6m)を制作・展示
【展 示】9月16日(土)～(予定)

■講演会「英遠が描く一虹の記憶／〈道産子追憶之巻〉を中心として」

【日 時】10月8日(日) 13時30分～
【場 所】美術自然史館 ロビー
【講 師】河野 敏昭
(美術自然史館学芸員)
【内 容】日本画の革新に取り組んだ前衛画家としての側面や、英遠が故郷をどう描いてきたかなど、その芸術世界の魅力を探ります。

生誕120年 虹の記憶 岩橋英遠展

9月2日(土)～10月15日(日)

滝川出身の日本画家・岩橋英遠。幅広い分野に挑み続けてきた70年を超える画業をたどり、その芸術世界を紹介します。

【開館時間】10時～17時(最終入館は16時30分)

【休 館 日】毎週月曜日、9月19日(火)、10月10日(火)

※祝日は開館

【入 場 料】一般500円／高校生以下無料

【問 合 先】美術自然史館 (TEL 23-0502)



▲題名・制作年不明



▲〈りんご園〉(制作年不明)

《道産子追憶之巻》を3年越しで再現！

道立近代美術館の中でも高い人気を誇る《道産子追憶之巻》は、公開期間が1年に1か月程度と限定されているため、いつでも見られる訳ではありません。だからこそ敏文氏は父の故郷でいつでも鑑賞できる環境を作りたいとの思いが募ったのかもしれません。岩橋ふるさと北辰振興会では、敏文氏と道立近代美術館の全面協力の下、《道産子追憶之巻》の高精細複製画(一億百万画素)を3年越しで再現。今回の特別展で市に寄贈され、初のお披露目となります。ぜひ、全長29mに及ぶ大作をご覧ください。



▲校正作業(道立近代美術館)

岩橋英遠の作品はいずれも私たちの目を引き付けますが、やはりふるさと江部乙を描いた《道産子追憶之巻》は誰もが驚き、感動することでしょう。全長約29メートルの大きさもさることながら、壮大なスケールで自然が描かれており、中でも夕焼けに染まる田んぼの上を無数の赤トンボが飛ぶ秋の情景は圧巻です。また、初公開したのが昭和53年ですが、展覧会終了後に引き取って描き直し、美術館に再び戻ってきたのが昭和57年。4年もの歳月をかけて描き直していることから、強い思い入れが伺えます。

その《道産子追憶之巻》の高精細複製画が滝川で見られるのです。本物と違わぬ迫力と感動をぜひ直接会場で感じてください。

《道産子追憶之巻》

「岩橋ふるさと北辰振興会」は、英遠が故郷滝川市のためにと、寄贈された資金の運用により組織されました。その命名にあたって英遠は、「北辰」という文字を入れることを要望されたそうです。なぜ「北辰」にこだわったのか。英遠が在籍した「江部乙村北辰尋常高等小学校」は、江部乙が滝川市と合併し、校名を「滝川市立江部乙小学校」と改称するまで長い間卒業生に親しまれてきました。後に英遠が故郷の中学生に「故郷は発展してほしい。しかし、変わってほしくないという気持ちもある。」と述べています。この矛盾した思いこそが、英遠の正直なふるさと観でしょう。

北辰は英遠にとって、ふるさとそのものでした。ホクシンという言葉をもとにだけ懐かしさが込み上げ、故郷江部乙への思い出の鍵が開かれるということではなかったかと思います。ふるさととの匂いの染みついた言葉は、江部乙村では「北辰」に代表され、もっと広い意味では「道産子」という言葉にこわだり続けた英遠でした。そのため絵巻には道産子の名を冠し、会には北辰を挿入するよう熱望したのではないかと考えています。

こうして《道産子追憶之巻》が誕生しました。英遠にとっては「ふるさと追憶」ではなく、あくまでも自分の生まれ育った場所を中心にして東西南北の、それぞれの季節への思いであったのでしょう。

Interview

NPO 法人岩橋ふるさと北辰振興会のお二人にお話を伺いました。

「岩橋ふるさと北辰振興会」は、画業に関する調査研究や普及活動をはじめ、英遠が子どもの頃に見た美しい桜並木の再生活動を通じて、「緑」と「芸術」が広がる魅力ある地域づくりに取り組んでいます。

岩橋家との交流も深く、中でも長男の敏文さんから2021年3月頃、「ぜひ《道産子追憶之巻》を滝川でいつでも鑑賞できるよう、複製画を作りたい。それを北辰振興会で取り組んでほしい」との意向がありました。ただ、感染症の拡大により思うように動けなかったため、正式に受諾したのは、同年11月、敏文さんのご自宅に伺ったことでした。

実際に取り組むにあたっては、所蔵している道立近代美術館の許可も必要で、ご相談が上がったところ、全面的なご協力をいただけることになりました。そして2022年6月、同館の展示室において、大日本印刷で重要文化財の再現に携わるチームが、3日間にわたって撮影しました。その後、お客様のいない休館日に入らせていただき、3回にわたる色校正やデジタル補正などを経て、ようやく高精細複製画の完成に至りました。

近くで見ても本物と見分けがつかないほどに再現された複製画です。まずは滝川市美術自然史館でじっくりご覧いただき、いつか、札幌の道立近代美術館で本物をご覧いただけると幸いです。



会長 早弓 弘行 さん



岩橋 英遠 (53歳)

理事 河野 のり子 さん



『〈道産子追憶之巻〉』(上下段)